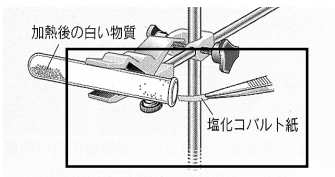
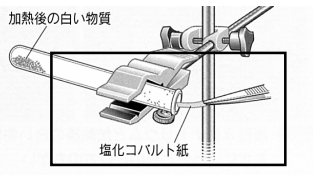


平成 19 年度用 中学校「未来へひろがるサイエンス」1 分野上

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
54	図 13		(自在ばさみで試験管をしっかりとはさんだ図に訂正)
86	右下 準備		「導線」を追加
149	右下		(自在ばさみを上下逆にして、試験管の口よりをはさんだ写真に訂正)

平成 19 年度用 中学校「未来へひろがるサイエンス」1 分野下

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
2	右下の装置写真		(自在ばさみを上下逆にして、試験管の口よりをはさんだ写真に訂正→1 分野上 p.149 の訂正参照)
7	図 4 中央上の装置写真		
5	方法①の図		
40	左上①の図		
44	下図		
91	実験 3 の下図		(自在ばさみで試験管をしっかりとはさんだ図に訂正→1 分野上 p.54 の訂正参照)
95	右下③の図		
5	左下図		
			(1 分野上 p.51 の図に合わせて訂正)

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
5	方法⑤の図		 (自在ばさみで試験管の口よりをしっかりと さんだ図に訂正)
27	実験 3 方法⑤の下		 実験後、使用した物質は必ず 指定された容器に集める。 追加
40	左段 5～8 行目	1. 試験管に入れた炭酸水素ナトリウムを加熱し、発生する気体を水上置換法で集める場合、加熱している試験管を破損しないために注意すべき点を1つかきなさい。	1. 試験管に入れた炭酸水素ナトリウムを加熱するとき、加熱している試験管を破損しないために注意すべき点を1つかきなさい。
41	左上④ 3.の図		(密閉状態であることを示すため、両方ともピンチコックを閉じた図に変更)
51	実験 1 結果	1. 記録されたテープを 0.1 秒ごとに印をつけ、その間の台車の移動距離をはかる。	1. 記録されたテープを 0.1 秒ごと(東日本では 5 打点、西日本では 6 打点ごと)に印をつけ、その間の台車の移動距離をはかる。
	実験 1 グラフ		「(東日本の場合)」を追加
65	右段 14～15 行目	運動エネルギー = $\frac{1}{2} \times \text{質量} [\text{kg}]$ × 速さ [m/秒] × 速さ [m/秒]	運動エネルギー $[\text{J}] = \frac{1}{2} \times \text{質量} [\text{kg}]$ × 速さ [m/秒] × 速さ [m/秒]
68	左下図		
82	図 2 注意	温度が高くなるので、反応後、温度が下がるまでさわらない。	温度が高くなるので、反応後、温度が下がるまでさわらない。 <u>温度が下がった後は、必ず指定された容器に集める。</u>
83	実験 1		・方法AとCの図で、スポイトびんのスポイトを一般的なスポイトに変更 ・方法Bの図で、スポイトびんのスポイトをこまごめピペットに変更し、準備の「スポイト」を「こまごめピペット」に変更 ・方法Bの図で、右のビーカー内のうすい水酸化ナトリウム水溶液の量をビーカーの5分の1程度に減らした図に変更
91	実験 3 注意	加熱後、目玉クリップでゴム管を閉じないと、石灰水や空気(酸素)を試験管に吸いこんでしまう。	加熱後、目玉クリップでゴム管を閉じないと、空気(酸素)を試験管に吸いこんでしまう。

※1分野下 p.27 実験 3, および p.82 図 2 の訂正につきましては、参考資料「鉄と硫黄の混合物の取り扱いについて」(別途 PDF データ)をご参照ください。